

丹沢ボラネット瓦版

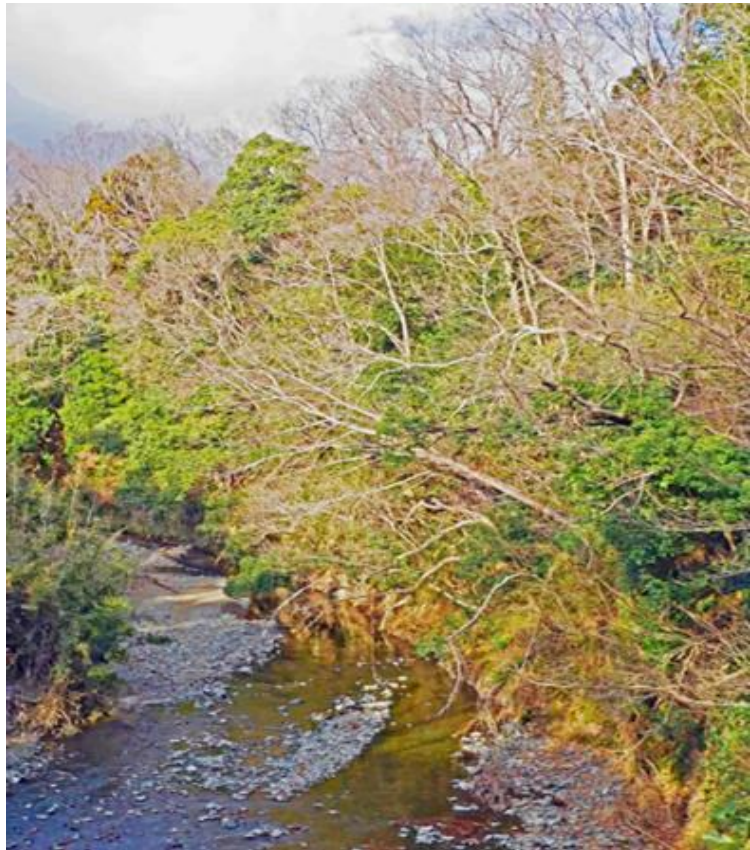
2025年3月号 No.121



↑写真 秦野盆地・富士山・表丹沢山塊(雪の表尾根→三の塔→岳ノ台→大山)

→写真

↑写真の秦野市内中心に
有る葛葉峡谷
くずはのつり橋上から撮影



2024年度は「丹沢大山自然再生活動報告会」が秦野市で開催されました。世話人会代表小林様が調報告会の内容をまとめくださいました。

丹沢大山自然再生活動報告会への参加報告

2025年1月25日

報告者 ボラネット世話人会 代表 小林 昭五

2024年度 丹沢大山自然再生報告会

テーマ「水源地域の森と水をつなぐ里～丹沢の里山再生を考える～」

日 時 令和7年1月25日(土)
会 場 秦野市保健福祉センター 3階
主 催 丹沢大山再生委員会 共 催 神奈川県・秦野市

12:00～ 開場・展示開始

12:10～ 第一部 活動報告

- 報告① 秦野の森林・里山・水辺の取り組み
秦野市環境産業部環境共生課 課長 谷 芳生氏
- 報告② ボランティア団体による里山での活動と課題
はだの里山保全再生活動団体等連絡協議会 比田井 昌英氏
- 報告③「秦野っ子×子どもヤマビル研究会交流会」の活動
丹沢MON合同会社 桐生 克明氏

14:20～ 第二部 シンポジウム

基調講演
かながわ水源環境保全・再生対策による水源林の再生
名古屋大学大学院生命農学研究科 五味 高志氏

14:50～話題提供① 近世丹沢山地の景観と環境～広大な草原と地域利用～
平塚市博物館 早田 旅人氏

話題提供② ホットケない！ 丹沢の淡水魚～里山のホトケドジョウ～
かながわ淡水魚復元研究会 勝呂 尚之

15:30～ 総合討論

16:30 閉会・展示終了

活動報告会とシンポジウム

丹沢大山再生委員会の勝山輝男委員長の挨拶から始まりました。

第1部 活動報告

報告① 今回の開催地秦野市の環境共生課谷芳生課長の報告が行われました。



↑ 写真 谷芳生氏の報告の様子

秦野市は以前、日本の三大葉たばこの産地でしたが、たばこ栽培の衰退後、里地里山が荒廃しました。そこで2000年以後、里地里山の保全・再生・活用をするため、各地で里地里山保全活動団体による再生活動が活発になりました。

2004年に環境省から「里地里山保全再生モデル事業」に選定され、更なる活性化が起こりました。その中で「はだの里山保全活動団体等連絡協議会」が発足し、約35団体が現在、活発に再生活動を行っています。

市街地に位置する広大な葛葉緑地には、拠点として「秦野市くずはの家」があります。くずはの家職員や様々のボランティアスタッフが協力して、豊かな自然環境の保全や環境教育や未来を担う人材の育成等をしています。

午前中には、その葛葉緑地で体験活動をさせていただきました。(後半部分に報告あり)

報告② 比田井氏から本協議会のボランティア団体が活動する様子と課題について説明がありました。

例として「渋沢丘陵の里地里山を楽しむ会」等の多角的活動(下草刈り、間伐、山道補修、椎茸栽培、東海大学生との共働)が発表されました。

課題は「会員の高齢化問題」、「新会員が集まらない」等、神奈川県全体のボランティア団体が抱える問題と共通しています。

報告③ ヤマビルへの向き合い方を新しい視点で取り組んでいて、今風な環境啓発対策が示されました。



↑ 写真 ヤマビル釣り大会ポスター

発表内容は次のようです。

- ① ヤマビルについての正しい知識を研究体験の中で得る事が大事ある。
- ② 三重県のヤマビル研究会の子供達との交流会の中で、ヤマビル捕りに夢中になった事から本年度は「ヤマビル釣り大会」を軸に活動計画をしている。

第2部 シンポジウム

基調講演

五味氏は丹沢地域の水源林への、再生対策について話されました。

水源環境保全税を活用して水源涵養事業等を進めて、一定の成果を出しているが、気候変動による豪雨等の激甚化への対策も必要であり、満足は出来ない。

それには多方面からの対策を取り入れることが大切である。人工的な構造物(ハード対策)ばかりでなく森林、水田、河川等の生態系復元など、自然に基づく解決策(NbS)も大切である。等話されました。



↑ 写真 五味氏の基調講演の様子

話題提供

話題提供① 早田氏のお話し

江戸時代の丹沢秦野地域の善波村では、豊かな草山が広く有りました。ところが新田開発により減少し、秣(馬草)場利用で争いが起こりました。

開発と秣場利用の競合、矛盾が見えます。

その当時の丹沢山地には現在と比較できない広大な草山が広がっていたと考えられます。現代の地域開発と自然保存に似ています。

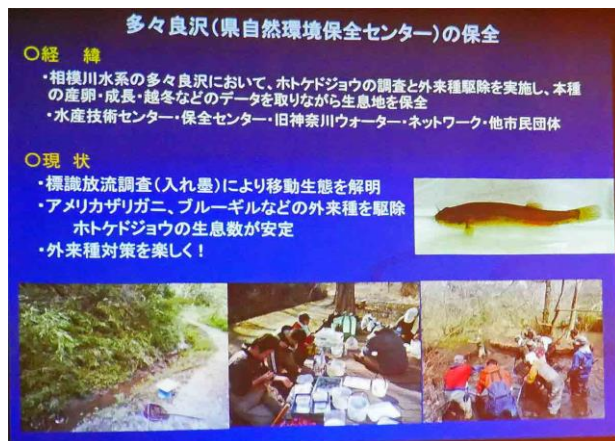
話題提供② 勝呂氏のお話し

多々良沢の報告の中で触れられましたように勝呂氏はボラネットが環境保全センター観察園の「池の外来種駆除と生き物調査」事業の時に、御指導をいただいた先生です。

先生はホトケドジョウの住める環境の保全や復元に取り組んでいます。
ホトケドジョウは山麓の谷戸や平野部の豊富な湧水の源流域等に棲息しています。現在、全国的に開発等で湧水の消失により、棲息域が減少しています。



↑写真 早田氏の話題提供の様子



↑写真 勝呂氏の話題提供の様子と保全センター池と沢の生き物等

総合討論

再生委員会の司会秋山氏を含め5名の登壇者を中心に会場の参加者と話題の提供内容や里地里山について話し合いが行われました。

丹沢地域では、未来のあるべき姿が各個人団体、地域により、固有なものを持っている。互いに意見を出し合い共通理解の基に地域で活動する事が望ましい。等自然再生へ向かって良い討論が出来ました。



↑写真 総合討論会の会場の様子

展示部門(ポスター展示発表)

明るい広い部屋に、再生委員会の補助金で行われた研究成果や秦野市関係のボランティア団体の、活動内容等がポスター展示されました。

大勢の参加者がゆつくりと見学していました。発表者に質問をされている方もいました。内容的に、よく研究された充実した研究発表で、文書発表とも言える内容でした。





↑写真 各団体活動成果の展示発表の様子

秦野市くずはの広場の体験会報告

最初に秦野市の谷課長より葛葉緑地の話と本日案内人二名の紹介が行われました。案内人は、くずはの家所長 高橋 孝洋氏と、OMOTANガイド 森林セラピー 小泉 俊江氏でした。



↑写真 くずはの広場のガイダンスの様子

二班に分かれて、くずは広場の体験会を行いました。くずはの広場内の観察コース林の一部は、葛葉峡谷地形を模してレイアウトされています。



↑写真 くずはの広場地形と自然の様子案内マップ(一例)

このような観察ガイドが発行されています。クロモジの木のある場所では香り等について話がありました。

森林セラピーは五感を働かせ心身を健康へ案内することです。触る、味わう、香りを嗅ぐ、聞く、見る経験等を大切にします。

植物やどんぐり等観察では、名前を知るばかりではなく、五感を持って触れたり嗅いだり体験活動をしました。



↑ 写真 小泉講師のクロモジブレンド茶を味わっている様子
左から二人目が森林セラピーガイドの小泉俊江さんです



↑ 写真 高橋講師説明の様子



↑ 写真 くずは峡谷の吉沢ローム層の説明

→写真写真

Kmp-1～Kmp-11

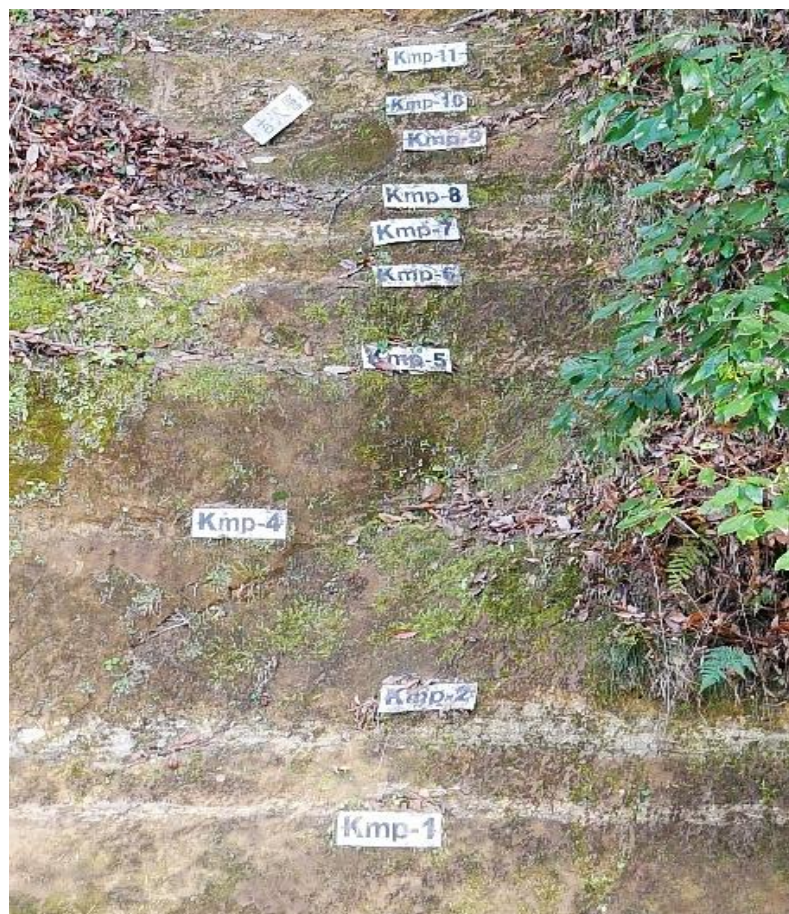
吉沢(きさわ)ローム層

K 吉沢

m ミドル(中部)

P 軽石(pumice)

箱根火山からのローム層
で年代が分ってる地層
です。



葛葉緑地(峡谷)の成り立ちと自然

葛葉(峡谷)緑地は神奈川県ナショナルトラスト第1号指定地です。金目川、葛葉川、水無川の複合扇状地に秦野断層が加わり峡谷が生まれました。

箱根火山の吉沢ローム層(Kmp1～Kmp12)の上には岩倉礫層が有り、下には葛葉台礫層が有り、13万年～5万年前に形成されました。

二つの礫層や河原の岩石はグリータフ(緑色凝灰岩)で丹沢山地(丹沢層群)から運ばれてきました。

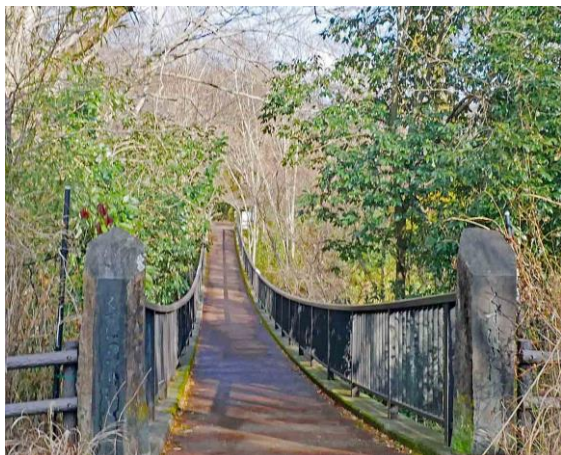
葛葉緑地には、600種以上の植物や豊かな自然があります。ここは市民、県民の体験学習のために最適な場所となっています。



↑写真 ハンノキ林の中のトンボのせせらぎ、水生昆虫やゲンジボタルの繁殖地
ハンノキはカバノキ科の落葉高木で湿地を好みます。田んぼの周囲に
植えられ、昔は農業に利用されていました。

葛葉峡谷の葛葉川には、くずはのつり橋が架かり、峡谷の見学や河原へ降りたり、金目川方向への良い交通路になっています。

高橋様、小泉様、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
又秦野市の皆様には、配車等良い援助いただき、ありがとうございました。



↑写真 くずはのつり橋



↑写真 朽ち木の中のタマムシの幼虫

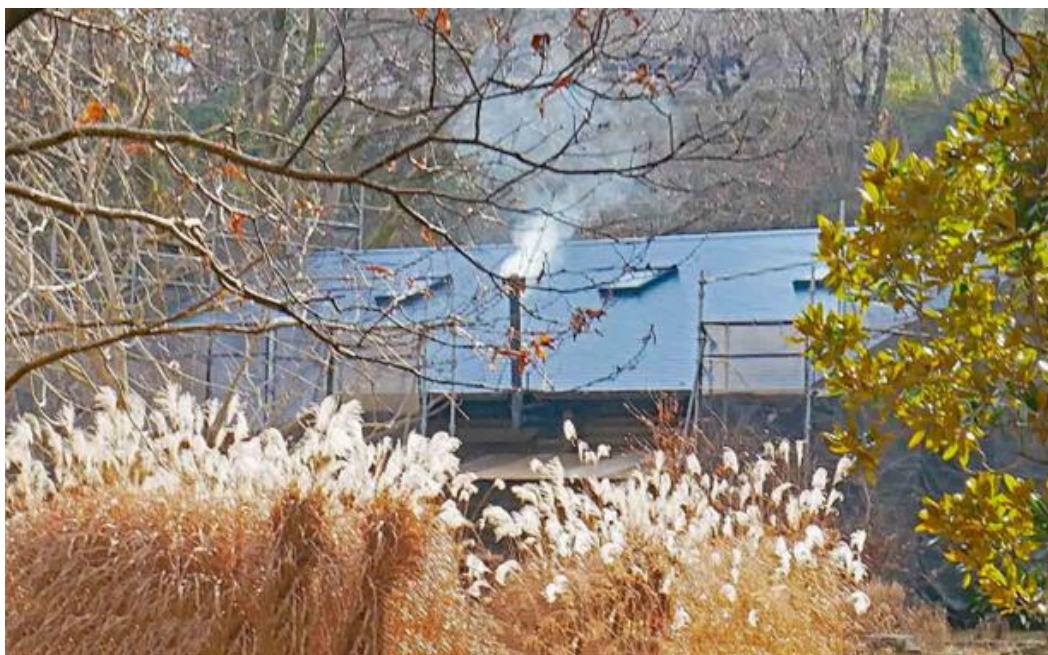


写真 工事中のくずはの家